

フィールド風

(現場)からの

宮田守男

朝晩には涼しさを感じる日々になってきた。この時期に秋の代表する花である秋桜が見頃になってきた。秋桜はメキシコ原産の花

で、日本に広がったのは幕末から明治時代にかけてと比較的新しい花だが、いまでは日本の風土にすっかり根付いているが、全国各地の至る所で植栽したため観光地の魅力を失うと一時は観光公書と揶揄された花でもある。厳しい猛暑で活動を休止した蜜蜂も盛んに活動を始める姿を見ることができ、貴重な花で秋桜を別の視点で楽しむ事ができて、今では楽しみ方の一つにもなっている。

またこの時期のソバ畑は花の季節。まさに今、満開を迎えている。風が吹くと一斉に揺れる様子は、ずっと見ても飽きない風景だが、虫の多さや気候にかなり左右されるため、花が咲きそろっても美にならないこともありソバの受粉率はかなり低く、1割程度と言われている。普通の

日本特有の食文化を 存続させる視点も大切だ

粉する植物でもある。そのためハチやチョウなどの手助けが必要で、虫を集めるための花の匂いが臭いと感じる人も多いが、今年の猛暑で匂いが強いと思うのは、ソバ受粉のために懸命に匂いを発散

年(財務省が予算執行調査の結果で、米の生産ができない農地や米以外の生産が継続している農地に、水田活用の直接支払交付金交付対象水田の見直しを求めた。
農水省は令和4年度には畦畔の無い農地を対象外に、令和8年度までに一度も水張りが行われない田は、交付対象水田としない方針を示している。農家は「今更水張りできないし、すでに稲作するための、農機具や栽培技術にも対応できない」との声が上がっている。規模拡大政策は避けられない課題だが、

小規模経営農家が存続させている日本特有の食文化を担っている小規模農家も多いはずだ。今後の農業の在り方に、多くの国民が関心を持って願うばかりだ。(信州地域社会フォーラム会員・白馬村森上)



大北地区賛助会白馬・小谷グループの美化活動は山岳環境を楽しむ機会でもある